

平成30年度 学校自己評価
新潟第一中学・高等学校 学校自己評価委員会

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
校内運営	学年、分掌、教科の連携を図る。	学年部会は週1回程度、分掌・教科部会は適宜実施する。	A 実施できた。 B おおむね実施できた。 C 実施できなかった。	A
		運営委員会を適宜実施して運営方針を協議し、学校全体の活性化を図る。	A 実施できた。 B おおむね実施できた。 C 実施できなかった。	A
指導法研究・研修	授業の工夫と改善を図る。また、常に研鑽に努める。	6年間または3年間を見通した各教科・科目の年間指導計画を作成し、それを生かしたわかりやすい授業を行う。	A 年間指導計画を作成し、その計画通りに授業を進めることができた。 B 年間指導計画を作成し、おおむね計画に沿った授業を行った。 C 年間指導計画を作成したが、計画通りに授業ができなかった。	B
		1年を通じて適宜公開授業を実施し、教員が相互に参観・講評することによって、指導力の向上を図る。	A 公開授業を実施し、教員相互の参観・講評によって、指導力を向上させた。 B 公開授業を実施し、教員相互の参観・講評によって、指導力の向上に努めた。 C 公開授業を実施し、参観・講評も行ったが、指導力の向上には結びつかなかった。	B
		校内外の研修会に参加し、研鑽に努める。	A 校内研修を学期に1回以上実施した。校外研修にも多数の教員が参加した。 B 校内研修を年に1～2回程度実施した。校外研修への参加も少数あった。 C 校内研修を実施しなかった。校外研修への参加はなかった。	A
学校案内	小・中学生及びその保護者に情報を提供し本校の教育理念特色を理解してもらおう。	学校見学会(中)、オープンスクール(高)、入試説明会(中・高)を実施する。	A それぞれ2回以上実施した。 B それぞれ1回は実施した。 C 実施できないものもあった。	A
		学校紹介のリーフレットを作成し、県内の小学校、中学校、学習塾等に配布する。	A 作成し、配布した。 B 作成したが、配布できなかった。 C 作成できなかった。	A
		学校行事が行われる毎にホームページを更新する。	A 行事毎に更新した。 B ある程度更新できた。 C あまり更新できなかった。	A
進路指導	生徒の進路希望を達成させ大学進学率85%を目指す。国公立大学合格者数80名以上を目指す。	学年部と連携して生徒の進路目標達成のための指導を行う。	A 連携して指導できた。 B ほぼ連携して指導できた。 C 連携して指導できなかった。	B
		計画的に進路志望調査を行い、目的意識を明確にさせるとともに、生徒の進路意識を把握する。	A 計画通りに実施した。 B ほぼ計画通りに実施した。 C 計画通りに実施できなかった。	A
		各教科の学習指導に効果的な情報を提供し、志望校合格に必要なセンター試験の得点率を達成させる。	A 目標通りに達成できた。 B ほぼ目標通りに達成できた。 C 一部目標通りに達成できなかった。	B
		LHR等において計画的な進路学習・大学研究等を行い、自分の将来を考えられるようにする。	A 計画通りに実施した。 B ほぼ計画通りに実施した。 C 目標通りには実施できなかった。	A
		進路講演会を行い、進路や人生について考えられるようにさせる。	A 計画通りに実施した。 B ほぼ計画通りに実施した。 C 計画通りに実施できなかった。	A
		大学入試や大学についての適切な資料提供を行い各学級での指導に役立てる。	A 十分な情報が提供できた。 B ほぼ提供できた。 C 提供できなかった。	A
		学年保護者会などの機会を利用して、保護者へ進路情報を提供する。	A 十分な情報が提供できた。 B ほぼ提供できた。 C 提供できなかった。	B
		キャリア教育を充実させ、自己啓発をうながす。	A 指導計画を作成し実施できた。 B 指導計画は作成したが一部実施できなかった。 C 計画通りに実施できなかった。	A
		進路目標達成のための面談や進路相談を実施し適切な進路指導を行うための資料を充実させ、提供する。	A 資料を充実させ、十分提供できた。 B 一部資料を充実させ、ほぼ提供できた。 C ほとんど充実・提供できなかった。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
生徒指導	教職員間の共通理解を図る。	全職員、学年との情報交換を密にし指導を徹底する。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	保護者に学校の指導方針を理解してもらう。	後援会総会、学年保護者会、学級懇談会、学年通信等通じて学校の指導方針を理解してもらう。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
	基本的な生活習慣を確立し、豊かな人間性を育てる。	授業時、HR、登下校指導など全ての教育活動を通じて、実践指導し基本的な生活習慣の確立を図る。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	生活・交通安全指導を徹底し、ルール・マナーを遵守させる。	年1回生活・交通安全講話を実施する。また、関係資料を作成し配布する。	A 講話は実施し、資料も作成配布できた。 B 一方だけできた。 C どちらも実施できなかった。	A
	生徒がより良い学校生活を送るために早期に実態把握と問題解決に努める。	学期に1回全校生徒に学校生活に関するアンケート調査を実施し、その結果をふまえ、生徒に適切な指導を行う。	A ほぼ実施できた。 B 毎学期は行えなかった。 C 実施できないことが多かった。	A
保健環境	明るく清潔な学習環境を作る。	各学級ごとに決められた清掃区域を毎日清掃する。	A 全員できれいに清掃できた。 B 大体きれいに清掃できた。 C きれいに清掃できなかった。	B
		年間計画による大掃除を各学期に1回実施する。	A 年間計画通りに実施できた。 B あまり年間計画通りに実施できなかった。 C 実施できなかった。	A
	防災訓練を実施する。	災害時に速やかに避難できるよう年1回防災訓練を実施する。	A 十分な内容で実施できた。 B 実施したが内容が不十分だった。 C 実施できなかった。	A
教育情報	各分掌と協力しながらウェブページの内容充実に努め常に最新の情報を提供できるようにする。	ウェブページを月2回以上更新する。	A 十分な内容で実施できた。 B 実施したが内容が不十分だった。 C ほぼ実施できなかった。	A
	生徒の読書・学習活動を充実させるための情報と場を提供する。	生徒や教員による図書の紹介、読書の勧めなどを掲載した図書館報を発行する。	A 計画通り発行し、生徒の望ましい読書習慣の確立に寄与できた。 B 計画通りに発行し、生徒に対し読書の重要性を知らせることができた。 C 計画通りに発行できなかった。	B
		平日7:20～、昼休み、放課後～18:30、日曜日以外土曜日も図書館を開放し、開館時間帯のカレンダーを教室に掲示する。	A 十分な内容で掲示できた。 B 掲示したが内容が不十分だった。 C 計画通りに掲示できなかった。	A
		図書部生徒の適切な活動により、書架を整理し、使いやすい図書館にする。	A 生徒の十分な活動により、使いやすく図書貸し出しの活発な図書館にすることができた。 B 生徒の活発な活動により書架は整然としていたが図書の貸し出し数を大幅に増やすことはできなかった。 C 生徒の活動も図書の貸し出しも活発ではなかった。	B
	視聴覚教室の管理を適切に行う。	視聴覚教室の使用予定表を掲示し、使用状況を周知させる。	A 十分に実施できた。 B 実施したが不十分だった。 C ほぼ実施できなかった。	A
	プロジェクター等の機器の管理を適切に行う。	定期的に機器の状態をチェックする。	A 十分に実施できた。 B 実施したが不十分だった。 C ほぼ実施できなかった。	B
海外(教育)研修や国際理解教育の企画・支援・推進を行う。	海外(教育)研修の募集、事前説明会、事前指導および事後指導などを行う。エンパワメントプログラムを実施。国際理解講座(英語・フランス語)を実施。	A 十分に実施できた。 B 実施したが内容が不十分だった。 C ほぼ実施できなかった。	A	
保護者との連携を強化する。		後援会総会、学年別保護者会への多数の保護者の参加を目指す。	A 平均して80%以上の参加であった。 B 平均して50%以上の参加であった。 C 平均して50%未満の参加であった。	B
		後援会機関誌「まなざし」を年3回発行する。	A 年3回発行できた。 B 年2回発行できた。 C 年1回の発行であった。	B
	卒業生との絆を強める。	同窓会総会の案内を発行し、8月に同窓会総会を開催する。	A 発行し、開催できた。 B どちらかしかできなかった。 C どちらもできなかった。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
教科指導 国語	読解力を身につけさせる。	現代文・評論・随筆・小説・韻文の論理構成・心情・主題などを理解させる。 古典・古文・漢文の文法・句法を習得させ、内容を理解させる。	A 十分に理解させることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり理解させることができなかった。	A
	表現力を身につけさせる。	要旨や主題をまとめる力、自分の意見をまとめる力を養成する。	A 十分に身につけさせることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり身につけさせることができなかった。	B
	大学受験に則した実力を身につけさせる。	基礎力テスト・週末課題・放課後セミナー等で大学入試センター試験に向けての力を養成する。	A センター試験の平均点以上であった。 B センター試験の平均点レベルであった。 C センター試験の平均点以下であった。	B
		国公立二次・私大入試に向けての長文読解・記述・論述力を養成する。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
教科指導 社会 地歴・公民	学年・科目に応じたきめ細かい指導を行なう。	各科目の指導方針、指導計画に準拠した適切な授業を展開する。 研究授業を通して、教科指導力を高める。 生徒の教科に対する関心を高めるため授業展開に工夫を加える。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	基礎学力を向上させる。	適切な週末課題や長期休業課題を課す。 課題テストや朝テストなどの成績を向上させる。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	実践力を養成する。	過去の入試問題を研究させ、解説を加えることで実践力を身につけさせる。 大学入試センター試験の各科目(世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政治・経済、倫理政経)の平均点が全国平均を上回るようにする。	A 大いに成果をあげた。 B ある程度成果をあげた。 C あまり成果をあげられなかった。	B
			A 平均点以上の科目が多かった。 B 平均点レベルの科目が多かった。 C 平均点以下の科目が多かった。	C
教科指導 数学	わかりやすい授業を実施する。	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。 研究授業、講習会等への参加を通して、指導力を高める。	A 実践できた。 B ほぼ実践できた。 C あまり実践できなかった。	B
	学力に応じた適切な指導を行う。	生徒の学力・進路希望に応じた課題を工夫する。	A 適切な課題を作成、提示できた。 B ある程度適切な課題を作成、提示できた。 C 適切な課題を出すことができなかった。	B
	基礎学力の定着をはかる。	基礎力テストや週末課題などで基本事項の理解と定着をはかる。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
	実践力を養成する。	校外模試や入試問題の過去問の演習を通して、応用力を養成する。	A 計画的な演習により満足する成果を上げた。 B 計画的な演習により成果を上げた。 C 問題演習はしたが、成果はでなかった。	B
教科指導 理科	授業内容を充実させる	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせ授業に反映させる 実験・観察を取り入れ、知的好奇心を引き出す 教員間で相互に授業を公開し資質向上を図る	A 実践できた。 B ほぼ実践できた。 C あまり実践できなかった。	B
			A 前年度より増えた。 B 前年度並みであった。 C 前年度より減った。	B
			A 定期的に行い資質向上を図った。 B 公開授業を行った。 C 実施しなかった。	C
	授業内容の定着をはかる	基礎力テストで平均得点 80%以上を目指し基礎学力を定着させる レベルに合わせて、適切な量の週末課題を課す	A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 60%未満	B
			A 適切な課題を作成、提示できた。 B ある程度適切な課題を作成、提示できた。 C 適切な課題を出すことができなかった。	A
	進路希望達成に必要な学力を養成する	個別指導において過去の入試問題を研究させ解説を加える 大学入試センター試験結果において全国平均点を上回る結果を目指す	A 前年度より丁寧に多くの生徒に実施。 B 前年度並みであった。 C 前年度より悪かった。	A
		A 平均点を上回った。 B 平均点と同じであった。 C 平均点を下回った。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	
教科指導 保健体育	集団行動を身につけさせる。	授業開始と同時に学校体操ができる状態にする。 集団の中で秩序ある言動がとれるようにする。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B B	
	各運動を通して自ら進んで体力を高める。	各運動に応じた補強運動を組み入れる。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A	
	百分自身で又は他者と協力して練習や試合ができる。	球技や武道の技術を向上させるとともに、他者と協力して運動の楽しさと喜びを味わう。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A	
	健康の大切さを認識して、自らの健康なライフスタイルを考える。	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、生活行動や環境を改善していく資質や能力を培う。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A	
	教科指導 英語	英語の基礎力応用力が身につくよう授業を工夫する	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。研究授業、講習会等への参加を通して、教科指導力を高める。 英語の基礎力の定着を図る。	A 実践できた。 B ほぼ実践できた。 C あまり実践できなかった。 朝テストの合格率が A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 60%未満	B B
外部テストを利用し、英語の実用能力を養成する。		中学部では英検、高校ではGTECを利用し、英語の運用能力を高める。	課題、演習問題の A 計画、準備、実践とも適切であった B 計画、準備、実践ともほぼ適切であった C 計画、準備、実践のいずれかが不十分であった 英検、GTECの実施において A事前指導が十分で結果も満足のものであった B事前指導は十分であったが結果に一部不満が残る C事前指導が不十分であり結果にも一部不満が残る	B	
中学部の指導 学力の向上		生徒個々の資質と学力に応じた指導を行う	適切な課題を出し、学習内容の定着を図ると共に、家庭における学習習慣の確立を促す。 定期考査・朝テスト等において合格点に達しない生徒に対して補習や再テストを行い、基礎学力の定着を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A B
		高校の学習内容との継続を意識した指導を行う	NRT・学力推移調査・中学総合学力調査について、結果を分析・評価し、改善点を明確にし、応用力の育成につとめる。 学年ごとに英検・漢検・数検の合格目標級を設定し、事前に丁寧な指導を行い、さらに上の級に意欲的に取り組む姿勢を育む。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A A
	指導目標を明確にし、分かりやすい授業を心がける	研究授業・公開授業等に基づいて教員間の意見交換を積極的に行い、授業の内容や方法の改善を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	B	
人間性の育成	基本的な生活習慣の確立を目指し、躰を徹底する	学校生活全般を通し、基本的な生活習慣・社会的なマナー・他者に対する態度の指導を徹底する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A	
	けじめのある、調和のとれた生活態度を育てる	生徒が中心となる集会や学校行事を通し、自主性や主体性を育むとともに、新潟第一中学生としての連帯意識を高める。 朝・昼休み・放課後に校内を巡視し、教員から積極的に声かけを行って、生徒の生活態度を指導する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A A	
	健康や安全に気を配り、快適な生活が送れるよう指導する	生活日誌や個人面談によって生徒の悩みやクラスの問題点を発見し、その改善を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A	
		自らの個性や適性を理解し、社会の一員として他者と協調しながら、自立した生活を送ることができる力を育む。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
高校1年の指導	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理をできるようにさせる。	A 年間出席率99%以上 B 年間出席率97%以上99%未満 C 年間出席率97%未満	B
基本的生活習慣の確立	規則正しい生活	きまりを守り、特に時間厳守・頭髪服装を正すことの意義を理解し、規則正しい高校生活を送らせる。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	第一高校生としての誇りの涵養	学校行事・HR活動の積極的参加と、部活動への参加を奨励する。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
		個人面談等により、一人ひとりを大切にする学級経営を実践する。	A 個人面談を1年間に4回以上実施 B 3回実施 C 2回実施	B
基礎学力の充実と学習意欲の向上	授業重視	授業を重視し、授業・土曜講座での内容の充実を図る。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	予習復習の徹底	家庭学習を計画的に行い、1日2時間以上の確保をさせる。	A 平均2時間以上 B 平均1時間以上2時間未満 C 平均1時間未満	B
	家庭学習の習慣化	Classiを使って、学習プラン作成と実施記録を取るにより家庭学習の習慣化を図らせる。	A 十分活用できた B 活用できた C あまり活用できなかった	B
	基礎力テストや課題提出の重視	基礎力テストにより基礎・基本の定着を図り、課題の調整・内容の精選・未提出者の指導を徹底する。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	実力養成講座	より高い学力を身に着けたいという意欲ある生徒の育成を目指す。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
進路を思考する態度の育成	進路意識の啓発	系統的進路学習を通じた、自己理解の深化と社会貢献意識の醸成	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	進路情報の共有と、適切な進路指導	個人面談、ホームルームの指導、進路ガイダンス等を通して、目的意識の確立と進路目標の早期明確化に努める。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	保護者との連携	学年保護者会・進路だより等により、進路情報を保護者に提供する	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
高校2年の指導 明るく、規則正しい学校生活を送る	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理・生活管理をできるようにさせる。	A 年間出席率99%以上 B 年間出席率97%以上99%未満 C 年間出席率97%未満	B
	礼儀を身に着ける	場面・状況に応じた言葉遣いや挨拶ができるようにさせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	規範意識の向上	日常的に校則等を守る姿勢を維持させ、学校や社会の一員としての自覚を持たせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
	第一高校生の中枢学年としての誇りと自覚	学校行事・HR活動・部活動等において、学校生活のリーダーとしての自覚を持たせる。 個人面談等により、一人ひとりを大切にする学級経営を実践する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった A 個人面談を1年間に4回以上実施 B 3回実施 C 2回実施	A A
学習意欲の向上と進路意識を高める	進路意識の啓発	計画的な進路学習の実施と進路意識の高揚を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	学習サイクルの定着	予習→授業→復習→発展の学習サイクルを確立し、1日3時間以上の家庭学習時間を確保させる。	A 学年平均が3時間以上 B 学年平均が1時間30分以上3時間未満 C 学年平均が1時間30分未満	B
	Classiの活用	Classiによる学習記録や模試成績等のデータから、進路目標達成に向けての計画に役立てる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	C
	自発的学習習慣の定着	講習・講座等を通じ、さらなる学力向上を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
学校生活の充実	各種行事への積極的参加	修学旅行等の学校行事を通して、充実した学校生活を送り、HR・学年の結束力を高める。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	保護者との連携	学年保護者会、学年通信などを通じ、保護者と連絡を密にし、情報の共有を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	
高校3年の指導 進路実現に向けた 学力の向上	授業第一の徹底	授業を大切にする姿勢の醸成。 予習→授業→復習の徹底	A 達成されていた B ほぼ達成されていた C ほとんど達成されていなかった	B	
		予習・復習の徹底を前提とした授業に対応出来る家庭学習の充実。	A 学年平均が4時間以上 B 学年平均が2時間以上4時間未満 C 学年平均が2時間未満		B
	講座・講習の充実	土曜講座・長期休暇中の講習や放課後の受験対策セミナー、等の充実。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B	
進路目標に応じた適切な進路指導	生徒理解と適切な指導	進路情報の提供・進路学習の充実・個人面談による適切な学習指導。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A	
	模擬試験等のデータの有効活用	校外模試等の成績推移や進路希望を示した個人成績表を面談等に活用し適切な進路指導にあたる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった		A
	多様な入試体系への対応	AO・推薦・センター試験・私大・国公立入試等、多様な入試制度に対する体系的な指導体制の確立と、教員間の情報共有。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった		A
社会の一員として自覚ある行動を促す	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理・生活管理をできるようにさせる。	A 学年出席率が99%以上 B 学年出席率が97%以上99%未満 C 学年出席率が97%未満	C	
	最高学年の自覚と行動	部活動や学校行事でのリーダーシップ発揮を積極的にサポートし、クラス、学年としての連帯感を培う。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった		A
		新潟第一高校生としての自覚と誇りの育成。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった		